

事業名称	地域映像アーカイブによるいがた MALUI 連携プロジェクト		
実行委員会	新潟県・新潟大学ミュージアム連携ネットワーク		
中核館	新潟県立歴史博物館		
	住所	〒940-2035 新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2	
	TEL	0258-47-6130	FAX 0258-47-6136
	ホームページ	http://nbz.or.jp/	
構成団体	新潟県立歴史博物館、新潟県立図書館、新潟県立文書館、新潟大学		
事業開始時点の課題分析	<p>新潟県立歴史博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として設置され、文化財の収集・保管・展示などの事業を行っている。また、本館は国内外の博物館、県内小学校などとの連携事業にも力を入れ、地域の文化資源を広く活用している。一方、新潟大学では、新潟県内各地の映像を発掘・整理・保存・活用を行う地域映像アーカイブの活動を行っている。また、MALUI（博物館・文書館・図書館・大学・産業界）の連携を進め、それらの文化資源を一元的に管理するシステムを目指すため、新潟県立図書館「郷土新聞画像データベース」と、新潟大学「いがた地域映像アーカイブ・データベース」を統合して公開、地域における教育・文化活動に活かす試みに着手した。</p> <p>このような地域における試みを発展させるため、地域の中核となる新潟県立歴史博物館には、MALUI 連携のハブとなり、それらの成果を地域の伝統文化の保存・継承・普及活動に活かすこと、また、館蔵資料だけでなく、各地域の文化資源を活用できる人材を育成することが求められている。</p>		
事業目的	<p>本事業は、以下の3点を目的としている。</p> <p>(1) 博物館・図書館・文書館・大学が協力することにより、地域の行政や個人が所蔵する写真・動画などの資料の新たな活用を探り、新潟県内、特に中山間地域の伝統文化を継承すること。</p> <p>(2) 新潟県立歴史博物館を県内外の市民が行き交う交流拠点とし、また日英2言語表記の配布用パンフレットを作成することにより地域文化の魅力を国内外に発信すること。</p> <p>(3) 博物館の収蔵資料や展示、図書館・文書館の収蔵資料、または地域に残る写真や動画などの資料を横断的に活用する事業の中で教育機関と連携し、地域資料の活用と継承を担う人材の育成を図ること。</p>		
事業概要	<p>本事業は「地域映像アーカイブを活用した官学民連携による新潟県の歴史文化普及事業」と「地域映像を通じた新潟県の歴史文化教育事業」によって構成され、新潟県立歴史博物館・新潟県立図書館・新潟県立文書館・新潟大学を中心として、地域の行政や個人などが連携して行う事業である。</p> <p>「地域映像アーカイブを活用した官学民連携による新潟県の歴史文化普及事業」では、博物館が地域の大学・行政・個人などと連携し、展覧会と講演会・パフォーマンスイベント・トークイベントを開催した。展覧会では、新潟大学が地域で発掘・調査を行った地域映像アーカイブの写真や動画と共に、その関連資料を博物館・図書館・文書館・個人などの所蔵資料から展示し、それらを比較対照することによって地域文化の新たな魅力を発信した。また、その成果をグローバルにも発信するために日英2言語による配布用パンフレ</p>		

	<p>ットを作成し、国内外の博物館・教育機関などに配布した。講演会・トークイベントでは、地域の写真や動画の潜在的な価値を多様な視点から明らかにした。パフォーマンスイベントでは、地域資料を手がかりにしたパフォーマンスを提示することにより、新たな地域文化の活用方法を提案し、文化の伝承と創造を表現した。</p> <p>「地域映像を通じた新潟県の歴史文化教育事業」では、この「歴史文化普及事業」の展覧会計画・準備に大学生が参加するプログラム、また展覧会や調査成果を基にした小学3年生向けのプログラム・ワークショップを開催した。これらは写真や動画を中心にした地域資料の活用実験であり、また地域資料の活用と継承を担う人材の育成を図るために開催した。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークメニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p> <p>実施体系</p> <p>1. 地域映像アーカイブを活用した官学民連携による新潟県の歴史文化普及事業</p> <p>(1) 官学民連携による地域文化の普及に関する行事の開催</p> <p>① 新潟県の映像（写真・動画）資料の展覧会開催</p> <p>(2) 地域文化の再発見を目的とした行事の開催</p> <p>① 新潟県の歴史文化に関する講演会</p> <p>② 地域文化を題材としたパフォーマンスイベント</p> <p>③ 新潟県の映像資料に関するトークイベントA・B</p> <p>(3) 地域に残された映像文化遺産の発掘・調査</p> <p>① 新潟県の映像資料などの調査A・B・C・D</p> <p>(4) 博物館と地域が連携した地域文化に関する交流・発信</p> <p>① 配布用パンフレットの作成と配布</p> <p>② アナログ映像資料のデジタル化</p>

	<p>2. 地域映像を通じた新潟県の歴史文化教育事業</p> <p>(1) 小学生「むかしのくらし」学習支援プログラム</p> <p>(2) 大学生のプロジェクト参加プログラム</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業において、新潟県立歴史博物館を中核として、新潟県立図書館・新潟県立文書館・新潟大学などの機関が共働し、アーカイブした地域資料を、一般の人々に親しみやすい形で幅広く発信するため、資料をデジタル化して整理し、展覧会として公開した。展覧会の観覧者数は6400人を記録し、例年の同時期の展覧会観覧者数を大きく上回る結果となった。その一方、当博物館に初めて来館した観覧者が多かった。また、展覧会に関連した多様なイベントを開催した。講演会やトークイベントは、歴史博物館では普段注目することがない視点による内容であり、初めて当館のイベントに参加したという人が多く、合計167人の参加があった。パフォーマンスイベントは展示室内で展示資料を題材として舞踊や演奏を行うもので、資料に芸術の方向から光を当てることにより芸術を愛好する客層を得て77人の参加があった。ワークショップや学習支援プログラムには小学生184人が参加、展示資料を起点にしながら、立体的な学習が展開された。特にワークショップでは、展示写真の内容を小学生が身体を使って再現しながら批評しあうなど、効果的な学習を支援できた。大学生のプロジェクト参加プログラムには23人が参加、主に展覧会の準備を通して歴史文化の活用を体験的に学んだ。大学生がプロジェクトの趣旨の理解を進めながら、展覧会の資料配置を検討、実際の展示作業に参加するなど、地域協働や資料の魅力の発信を担う次世代育成の機会となった。</p> <p>本事業は調査・展覧会・イベントなど多岐にわたったが、これらに参加・観覧した人々の多くから、「少し前まで当たり前に見た風景や人物が記録された写真や動画が、資料として活用されることを目の当たりにして、初めて地域の文化財になりうるものであるという認識を得た」というような感想が聞かれたことも大きな成果であった。</p>

【事業実績】

〔利用者人数一覧〕

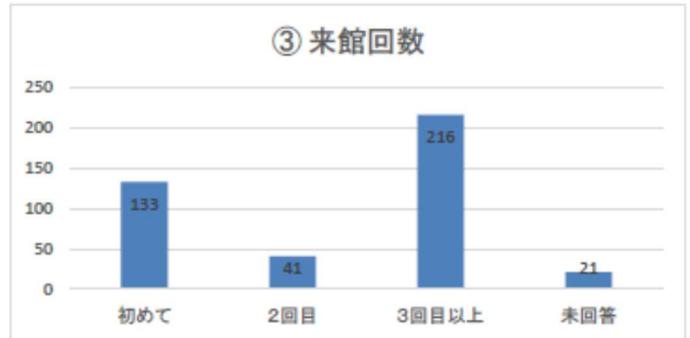
- ・1月19日～3月21日 展覧会 6400人
- ・1月19日 講演会（原田・水島） 60人
- ・3月3日 トークイベント（土田・飯沢・大倉） 80人
- ・3月10日 トークイベント（石田・高倉・榎本・堀川） 27人
- ・3月9日 パフォーマンスイベント（堀川） 77人
- ・12月23日～26日 大学生のプロジェクト参加プログラム展示作業 23人
- ・2月15日 学習プログラム（北村） 104人
- ・2月17日 ワークショップ（堀川） 4人
- ・2月19日 ワークショップ（堀川） 61人
- ・2月21日 ワークショップ（堀川） 19人
- ・2月23日 高校生ワークショップ（堀川） 6人

〔実績概要〕

1. 地域映像アーカイブを活用した官学民連携による新潟県の歴史文化普及事業

(1) 官学民連携による地域文化の普及に関する行事の開催

① 新潟県の映像（写真・動画）資料の展覧会開催（平成 31 年 1 月 19 日～3 月 21 日）



観覧者の来館回数（アンケートより）

展覧会の観覧者は 6400 人であった。アンケート結果の分析から以下の点が効果として見出された。

アンケート回答者 411 人の内、133 人が初めて当館に来館した方々であった。通常に開催する展覧会では扱わないテーマだったため、新規の客層を得たと考えられた。これは当館の認知度を高め、利用した経験のある人を増やすことにより、今後、地域の中核館としての役割を果たすことにつながるという意味において効果が大きかった。

本事業の調査・整理事業の結果、各地において資料が発見され、その成果を展覧会に反映できた。その反響として「地元の写真撮影者に誇らしさを感じる」という回答がみられた。地域共働の成果により、地域の魅力を地元の住民が再発見する機会となったことが読み取れた。このことは、「新しい発見がありましたか」という設問に「あった」と回答した人が 90.8%に上ったことでも確認できた。また、その再発見の喜びがリピーターの獲得にもつながったと考えられ、「もう一度見に来ます」「3回目の観覧に来た」などのような観覧者の声がしばしば聞かれた。

(2) 地域文化の再発見を目的とした行事の開催

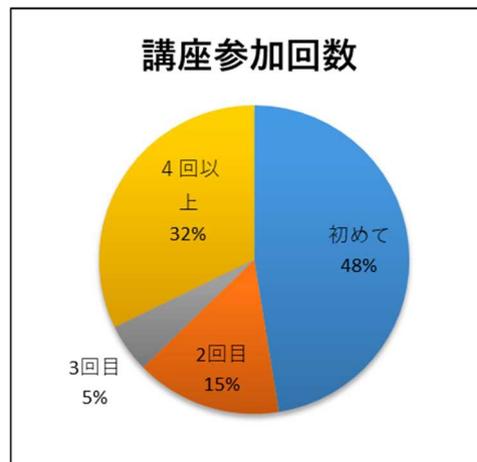
① 新潟県の歴史文化に関する講演会（平成 31 年 1 月 19 日）

② 地域文化を題材としたパフォーマンスイベント（平成 31 年 3 月 9 日、10 日）

③ 新潟県の映像資料に関するトークイベント A・B（平成 31 年 3 月 3 日、10 日）



3 月 3 日のトークイベント風景



3 月 3 日イベントのアンケート回答より

講演会やトークイベントは、合計 167 人の参加があったが、歴史博物館では普段注目することがない視点による内容であり、初めて博物館の講座（イベント）に参加したという人が多かった。アーキビスト、写真家、写真評論家などが講師となった結果、「新たな写真の見方」「アーカイブの必要性」を学んだという感想も寄せられた。

パフォーマンスイベントは、展示写真を題材として舞踊と演奏を展示室で行うというもので、当館では初めての試みであったが、77 人の参加があった。歴史的な写真を芸術的な視点からとらえるというパフォーマンスは、資料活用の新たな一面を提示し、通常の当館利用者ではない客層（当館イベント参加が初めての人がアンケート回答者の約 7 割）となった。即興的な現代舞踊と音楽で構成されたため、アンケートの内容の理解度の回答が「難しい」74%となったが、満足度の回答も「満足」71%と高かったことから、新たな体験を通して混乱しながらも次第に理解を深めて満足した様子が読み取れた。以上のような新たな視点の提示が地域の歴史文化の再発見を促した。

(3) 地域に残された映像文化遺産の発掘・調査

① 新潟県の映像資料などの調査

地域に眠る映像資料の発掘、映像資料に関する聞き取り調査などを進め、その成果の一部は展覧会やイベントで公開することができた。また、聞き取り調査の成果の一部は『「村の肖像」調査記録報告書』として刊行し、地域に還元した。

(4) 博物館と地域が連携した地域文化に関する交流・発信

① 配布用パンフレットの作成と配布

② アナログ映像資料のデジタル化

各地域の調査で発見され、デジタル化した写真資料の一部を普及用のパンフレットとしてまとめ、展覧会会場などで配布した。展覧会のアンケートでもパンフレットを評価するコメントが多く見られた。また、このパンフレットは日英文の併記で作成、国内の公的機関・大学などに発送すると共に、海外の主要なメディア研究・写真研究の機関などに発送して成果のローカル・グローバルの両方への発信につとめた。

2. 地域映像を通じた新潟県の歴史文化教育事業

(1) 小学生「むかしのくらし」学習支援プログラム（平成 31 年 2 月 15 日、17 日、19 日、21 日）



2 月 21 日のプログラム（ワークショップ）



2 月 19 日のプログラム（ワークショップ）

2 月 15 日はメディアを利用した教育を研究する講師によるワークシートを使ったプログラム、17 日・19 日・21 日は舞踊家の講師による写真の風景を身体で表現するプログラムを実施し、合計 184 人が参加した。

いずれも小学3年生の社会科単元「むかしの暮らし」学習を支援する内容として、参加した小学生、付き添いの教員ともに好評であった。特に舞踊家によるプログラムは、展示写真が撮影された時代を知らない世代が、自分の身体を使って写真の風景を表現することによって、体感的に「むかしの暮らし」に関心を持つ様子が見受けられた。このような地域の歴史資料に主体的に関わった体験は、資料活用を担う次世代の育成にもつながると思われる。

(2) 大学生のプロジェクト参加プログラム（展示作業：平成30年12月23日～26日）



23人の新潟大学の学生が「表現プロジェクト演習」という講義の一環として当事業の展示会の準備、設営に参加した。大学の講義の中で、本事業の主旨や展示会の構想について理解を深め、展示構成や資料配列について検討した。そして、博物館における展示作業では、各コーナーをグループごとに担当し、現場で計画や手法の修正をしながら、作業を進めた。アーカイブされた資料の活用を学生が実際に体験することは、次世代の育成として有意義であったと考えられる。